

令和7年度 事業計画評価シート

新潟大学附属長岡小学校

(本年度、重点的に取り組む事柄)

【義務教育】確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
 【教育研究】文部科学省研究開発指定「ものづくり科」2年次研究において、単元開発を推進し、実践の評価を行う。
 【教員養成】新潟県の教員研修、教員採用選考検査に対応する教育実習を実現する。

学校関係者評価	
A	とても適切である
B	概ね適切である
C	あまり適切でない
D	適切でない
E	判定できない

評価項目	具体的評価項目及び指標	学校関係者(学校運営協議会)評価	
		評価	意見・理由
【義務教育を実施する学校として】 1. 確かな学力の向上 2. 豊かな心の育成 3. 健やかな体の育成	1 タブレット等を活用して個別最適な学びと協働的な学びを推進し、教科等横断による探究型の授業、単元を展開する。 指標：全国学力・学習状況調査全国平均以上。CRT得点率国語・算数ともに平均が120を上回る。 2 「ものづくり科」の時間等において、目標をもとに振り返る場を設定し、自他の成長を自覚させる。 指標：「ものづくり科」の学習を通して地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考える子供を80%以上にする。(学校評価児童アンケート) 3 ICT等を活用し、体力の状況や自分の動きを可視化し、めあてをもって運動に取り組ませる。 指標：3～6年生以上の平均が県平均を上回る種目80%以上にする。	A	・読み・書き・考える活動を重視し、異なる意見と交流しながら学び合う授業が行われており、児童が忍耐強く楽しみながら学びを深めている様子が見られた。 ・ものづくり科では、社会や企業の大人と関わる学習を通して、実社会とつながる経験が児童の自信につながっていると感じられた。 ・体育では、運動の様子を撮影して振り返る活動を取り入れることで、自他の動きを比較しながら技能の向上につなげている。 ・各種調査結果や授業の様子から、知識・理解だけでなく、思考力・創造力・表現力などが育成されていることがうかがえる。 ・授業では児童が自分の意見を述べ合い、互いの考えを尊重しながら学びを深めている姿が見られる。 ・教師と児童の対話を大切に授業が行われており、児童の主体的な気付きや学びにつながっている。
【教育研究を推進する学校として】 1. 幼小中の一貫教育を推進する学校として行う、幼・中との連携教育活動 2. 新潟県教育委員会、長岡市教育委員会との連携	1 「ものづくり科」研究2年次における単元開発・実践研究を推進する。 指標：ものづくり科アンケートで「ものに関わる様々な人の思いや多様な要望を聞き、それらの要望を実現するためにものをつくったり、改良したりする。」肯定的評価80%以上 2 中越地区教育委員会の訪問等により課題を把握し、ニーズに対応した解決策を提案する研修会、研究会等を実施する。 指標：教職員、学生に向けた研修会、研究会を年30回以上実施する。 研究会・研修会後のアンケート評価で肯定的評価80%を目指す。	A	・「ものづくり科」を中心に、幼小中三校園が一体となってスパイラル的に研究を進め、総括していこうとしている点は大きな意義がある。 ・モデル授業の公開や研究会のハイブリッド開催により多くの参加者を得ており、附属校の授業実践が地域の教員にとって大きな学びの機会となっている。 ・講師派遣などを通して地域の学校への支援が行われており、アンケート結果からも高い評価を得ている。 ・三校園で育てようとする子ども像や育成する学力をさらに明確にし、研究成果を地域の学校へ還元していくことが期待される。 ・幼稚園児と低学年児童の交流を通して、進学への期待感や思いやりの気持ちが育まれており、互いに良い影響を与えている。 ・参加者アンケートからも、地域に向けたモデル授業の公開が効果的であったことがうかがえる。
【教員養成を行う学校として】 1. 学校全体で行う効果的な教育実習の実施 2. 教員学部、教職大学院の授業への協力	1 学生に向けた教育実習事前打ち合わせ、教育委員会による講話、へき地参観を実施し、教職への具体的な見通しをもたせる。 指標：教育実習事後アンケートで、「将来、教職を希望しますか」に肯定的に回答した学生を80%以上にする。 2 共同研究、研究会指導者等で、大学教員、実務家教員とかかわり、その中で附属学校教員自らの授業実践、研究内容等について知ってもらう。 指標：教育学部、教職大学院の授業へ、動画提供を含めて年20回以上協力する。	A	・新潟県においては、新潟校とともに長岡校も重要な教育拠点であり、その必要性は高いと考えられる。 ・教員の働きかけにより、学生の関心や意欲を高めることができている、具体的な目標に基づく実践が成果につながっていると考えられる。 ・教育実習期間中のダンスフェスティバルなどの行事は、児童と実習生が感動を共有する機会となり、実習生の意欲向上につながる取組である。 ・附属校教員が実践家として学部や教職大学院の授業に協力することは、大学との連携を深める上で重要な取組である。